

創世記 第15章 5節

「彼を外に連れ出して仰せられた。『さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。』さらに仰せられた。『あなたの子孫はこのようになる。』」

感染症も姿かたちを変異させながら既に3年目にはいつている。その間、医療、社会福祉、教育、企業関係者による切れ目のない働きが続いている。あるときは脚光を浴びまた称賛され、他のときには失態を批判され、対応の遅さと苦情が投げられる。それぞれが置かれた場からしか見えない光景と向き合っの数年間となっている。

職場はテレワークが推奨され、かなりの事業所が取り入れ、多くの従業員は自宅が職場となっている。家族にしてみれば、突然降ってわいたような環境の変化に戸惑っているだろう。それに、学校も時々在宅授業へと転嫁する。みなそれぞれの空間に籠っての生活が多くなった。あまり長く続くと息苦しさを覚え、また視界が狭く生活上のストレスが高まる。これに加えてさらに過酷なのは、茶の間の画面を通して映し出される東欧の戦禍である。いのちの生き詰まりを感じる。

でも、そんな者を誰かが外に連れ出し、空を仰ぐことを教えてくれるとき望みが降り注ぐ。たとえ荒地に立っていても。かの地であっても。

2022年4月15日